

縄南中通信



平成30年 1月 9日 発行
2017年度 第9号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野 功

縄手南(小中一貫)施設分離型義務教育学校(平成31年度開校予定)教育理念

「縄南道」による二十歳の成人式に

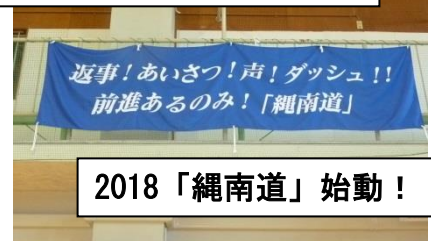
当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「個」の成長を意識し集団を高める！ 日本一を意識しそれを越える！

新年あけましておめでとうございます。2018年がスタートしました。「一年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、これは一年の計画は年の初めの元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんと計画を立てることが大切であるという意味です。「縄南道」でも何事も「準備」ということに意識をおくことの大切さを日頃から伝えていきます。準備には物理的な準備だけでなく、「心の準備」

もあります。「意識」して「行動」することが「習慣」となっているか、そしてこの「習慣」となることが個々の質を高め、「結果」に繋がるということをしつかりと自分自身で理解できているでしょうか。「心の準備」なしでは、最初の「意識」に到達しません。「試合はユニフォームに袖を通した時から始まっている」と話したことがあります。まさにこれは「心の準備」について伝えているのです。年末から「個」の成長に関して繰り返し伝えてきました。2018年のスタートはまさしく「個」の成長に取り組み、縄手南全体の集団の力を高めることを意識して下さい。年末には縄手南が取り組んでいるラジオ体操を例にして話しました。現在の縄手南の生徒諸君は、体育祭のように集団でラジオ体操に取り組めば、一定の高いレベルで演技できるようにはなってきました。しかしながら、休憩時間や昼休み、あるいは放課後といったような場面で、突然校内にラジオ体操の号令がかかったとした時に、教室や廊下、運動場といった場所で、果たして個々の生徒が体育祭で演じた演技を、あるいはそれ以上の演技をその場で実践できるかと考えてみて下さい。「個」のレベルが高まっていればできるはずですが、できないとすれば、できるレベルに「個」を高める必要があります。それが目標設定です。もし、こういった突然の場面でも「個」の意識、「個」の力が高まり完璧な演技ができたとすれば、次の体育祭での集団演技としてのラジオ体操は間違いなく今年度の演技よりレベルの高い素晴らしいものとなり、見ていただいている方々にもさらに感動を与えることができるでしょう。集会の時に次のような話をしたこともあります。「もし、日本一の学校があったとしたら、その学校の生徒たちはどんな様子で起立し、どんな様子で背筋を伸ばし、どんな声を出して挨拶をしているのでしょうか。」と想像し、「それを越えて下さい。」と伝えました。個々の生徒諸君が常に意識して行動し、それが習慣となれば必ず「個」の様子は変わります。「個」の意識が高まった集団が全員で起立し、静寂を保ち、挨拶をすれば、間違いなく素晴らしい集会が始まり、そこで聞いた話や伝わった内容はさらにレベル高く「個」の振り返りとなって吸収される

返事！あいさつ！声！ダッシュ！！



2018「縄南道」始動！

でしょう。「個」を磨くことは、縄手南全体の力を高めることとなるのです。生徒諸君は気づいていないかも知れませんが、全校集会での先生たちの指示を思い出して下さい。「0.1秒にこだわって」「背筋に力を入れて」という指示はありますが、「早く立ちなさい」「ぐらぐらしない」といった指示はほとんどないのでありませんか。これは集団が高まっているからです。縄手南の生徒諸君は、2017年もたくさんのごことを積み上げて来ました。「個人の行動は縄手南という全体の責任を担っている」ことを忘れずに、2018年もさらに高いレベルの「当たり前」に挑戦して下さい。日本一を意識し、意識した日本一を超えることを目標としてぜひ達成して下さい。もちろん達成には努力が必要です。「一生懸命」に、「ていねい」に、「ひたむき」に積み重ねていって下さい。

「はい」と答えることのできる瞬間から始まる「進化」

プロ野球楽天イーグルスの元監督の野村克也氏が「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉を話しておられました。何事にも一生懸命に取り組んでいけば奇跡のような結果を生むことがあるが、いい加減にしか取り組んでいなければ当然結果は見えているということを書かれた言葉です。私が大学生で現役の時、練習最初のキャッチボールでいい加減なプレー（その時は特にいい加減とも気づいていなかったのですが・・・）をして監督に強く叱責されました。「もう練習しなくていい。帰れ！」と伝えられました。私は「帰れと言われて帰る＝二度と練習にはもどれない」と認識していましたので「いいえ」と返事をしました。結局その日は練習メニューは与えられませんでした。私はグラントの端でずっと立ち、声を出していました。次の日は当然、自ら一番にグラウンドに出て、前日と同じように一日中、グラウンドの端で声を出していました。一番にグラウンドに出ることは当然です。声を出していたと言えば聞こえはいいですが、声を出すことしか自分にやれることはなかったのです。掛けられた言葉は、「やる気のない者はチームには必要ない。」「どうせいい加減なプレーしかできるはずがない。」といった叱責で、答えることのできる返事はすべて「いいえ」でした。しかし次の日、監督から「本気でやる気があるのか」と尋ねられ、久しぶりに「はい」と返事をすることができました。この時に「はい」と返事ができることの大切さや監督の気持ちを感じることができました。もし、自分では手を抜いたつもりはなかった3日前に、「帰れ」と言われて帰っていたらその後の自分は当然ありませんでした。縄手南で生徒や先生はもとよりPTAや保護者の皆様、地域の皆様とこうして日本一を目指すこともなかったでしょう。あのままプレーしていたら「負けに不思議の負けなし」を実行する選手になってしまっていたことには違いありません。「勝ちに不思議の勝ち」を呼び込める「個」やチームでありたいと感じます。

クラブ等の主な記録

第67回「社会を明るくする運動」作文コンテスト

優秀賞 柴田遥華(8年) 深井有澄 高木こころ 豊田明里 道家このみ 樋口結夏 (以上7年)

団体賞 東大阪市立縄手南中学校

第7回大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション 入選 格清美優(8年)

陸上競技 第51回東大阪市中学校総合体育大会 駅伝3区 3位 中田美月(7年)9'42"

女子バスケットボール 第51回東大阪市民体育大会少年女子Dブロック 3位

大阪府支援教育研究会中河内支部主催中学生屋内スポーツ大会卓球

9年女子B3位 西岡歩美 7年女子B3位 井元葉月 影山綺星

剣道

一級昇級 内田佑磨 松葉匡亮 中田陽介 西村歩武 守谷真聖 野村晃汰 平山大誠 秋山知輝(全8年)

三級昇級 横江柚季 杉本明佳里 小泉諒侑 馬崎壮永 出口直輝(全7年)

吹奏楽 東大阪市アンサンブルコンテスト

金管六重奏 金賞「夏の丘の街」 管打七重奏 銀賞「ブリリアントダンス」